

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立春日小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・専門部会運営に力を入れ、児童の課題や達成目標を可視化しつつ具体的目標の達成を目指してきたことで、一定の成果は得た。次年度は、月1回の4部長会や専門部会においてよりPDCAサイクルを意識して取り組むことで、よりよい学校運営をめざしていく。 ・「学校・学級の一員として役に立っている」と回答した児童は、昨年度よりも10%増加したが、目標値には満たなかった。学校、学級に所属感をもつことが、児童の向上心につながると思えるため、居心地のよい学級風土づくりや児童が自分のよさに気づけるような取組に力を入れていく。 ・保護者からの感謝や激励の言葉を今後の学校運営の励みにするとともに、改善に向けた意見も真摯に受け止め、解決策を検討する。
---------------	---

2 学校教育目標	自分から かんがえ すなおに がんばる 春日っ子の育成 ～温もり～
----------	-----------------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ① 児童が「学びたい」「分かった」と思う授業づくりに努め、主体的な学びができる児童を育成する。 ② 周囲の人やものを大切にできる温もりのある学級・学校づくりを目指す。 ③ 目標に向かってあきらまないでチャレンジするたくましい心と体をもつ児童を育成する。 ④ 家庭・地域との連携を図り、安全に安心して生き生きと活動できる学校づくりを進める。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「何を問われているのか(聞かれているのか)を考え、それにあった自分の考えを書くことができていく」と回答した児童85%以上	・児童の発達段階や理解の程度に応じた手立てを講じたり、見通しの提示や視点を示すことで、主体的な学びにつながる自分の考えを書く活動を取り入れた授業づくりに取り組む。	A	「何を問われているのか(聞かれているのか)を考え、それにあった自分の考えを書くことができていくと思う」と回答した児童は93%であった。9月に実施したアンケート結果と比べると11%上昇し、数値目標も上回ることができた。	A	・授業を参観した際、子どもたちがのびのびと発表している姿が多く見られ良かった。 ・2年生「町たんけん」での、子どもたちが講師の話や、その後のお礼状から、子どもの理解力の高さに驚かされた。相手の話が良く理解できていることが分かった。	学習指導部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手のことを考えた、挨拶・返事・言葉づかいができていく。」の項目で、「できていく・だいたいできていく」と回答した児童・保護者・教師の割合90%以上	・生徒指導協議会で全校児童の状況を共通理解し、全職員で手立てについて考え、共通した指導を行う。 ・児童による委員会(生活委員会や温もり委員会など)と連携しながら進める。 ・職員による「きりり発見活動」 ・春日小独自の「温もりあいさつ」を周知し、広げていく。	B	「相手のことを考えたほかほか言葉を使うことができる。」の項目で、肯定的に回答した児童は、93%だったが、「相手のことを考えた挨拶ができていく。」の項目で、肯定的に回答した児童は、88%だった。 ・生活委員会で毎週あいさつ運動をしたり、温もり委員会で相手のことを考える習慣をつけたり、「きりり発見活動」で児童の善行を価値づけたりして、肯定的に回答できる児童の割合を増やしていきたい。	B	・校区内で自ら挨拶ができる子どもは、まだまだ十分とは言えないと報告されていたが、個人的な感覚では地域の大人の方が挨拶はできていないと思う。 ・地域活動に参加している子どもたちは自分から挨拶ができるし、笑顔での会話もしている。大人を含めて人とのふれあいが成果に表れるものと考えている。	生活指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「いじめをされたり見たりした時に、周りの人にすぐ相談できる」と回答した児童の割合90%以上。「学校生活を楽しくしている・学校はいじめ防止に取り組んでいる」という項目で、「そう思う・ややそう思う」と回答した保護者の割合90%以上。	・「いじめ・いじめを考えた日」の取組の充実 ・「QUアンケート」や「すっきりニコニコアンケート」を実施し、児童理解を行う。実施後は早期にヒアリングを行い、いじめの早期発見・早期対応を行う。 ・保護者の相談に迅速に対応する。 ・レインボー作戦のポスターを各学級に掲示し、日ごろから授業などの時間を使って活用し、子どもたちに意識付けできるようにする。	B	「いじめをされたり見たりしたときに周りの人に相談できますか。」の項目で、肯定的に回答した児童は83%だった。「学校は楽しいですか。」の項目で、肯定的に回答した児童は88%だった。 ・毎月行った「すっきりニコニコアンケート」で、いじめの早期発見に努めた。その他にも児童の様子を見て必要に応じて聞き取りを行い、複数で対応を行った。「いじめ・いじめを考えた日」は、月に一度テーマをもって取り組み、人権感覚を養った。レインボー作戦について、より意識を持てるようポスター掲示のほかにも取り組みを行ってきたい。	B	・「いじめの相談ができていく」の回答が、目標の数値に届いていないとのことであったが、「QUアンケート」の結果なども実践に活かされるのではないかと思う。 ・アンケートからは、子どもも保護者も楽しく生活していると感じていることが分かる。	生活指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みの実践	A	「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒が90%以上となった。 ・「将来の夢や目標を持っている」として肯定的な回答をした児童生徒87%となった。 ・「きりり発見活動」を継続し、自分の考えやよい行動を認められたことで自信をもつ児童が増え、全校でも人のために行動しようという意識が高まった。	A	・授業参観を見た時に、先生方が子どもたち一人ひとりの目を見ながら、授業を進める様子が見られ、先生方が子どもたちのことを理解しようとしてくれていると感じた。 ・公民館の七夕やクリスマスツリーに多くの子どもが願いを飾っていた。家族や周囲の人の幸せを願うメッセージも多い。「高志館高校」に行きたいと書く子どもも増えていた。	特別活動部
●心の教育	○特別支援教育の充実	○「気になる児童について共通理解を図り、職員がチームになって、よりよい支援の在り方を探っている」という項目で、「そう思う・ややそう思う」と回答した教師の割合90%以上。	・教育相談会を月一回、及び必要に応じて実施し、児童の実態や支援体制について共通理解を図る。 ・気になる児童に対して適切な対応ができるよう、タイムリーにケース会議や連携会議を開き、家庭と学校の両輪で児童を支えていく。	A	「子どもたちの困り感に応じた支援を行うと共に、全校で特別支援の体制を充実させることができましたか」の項目で、肯定的な回答をした職員は、96%だった。教育相談会(情報交換会)を毎月1回実施した。定期以外に普段から情報交換ができた。 ・児童の実態や支援体制について共通理解できた。また、自立活動や発達障害の特性を有する児童についての理解と支援についての研修を実施した。 ・配慮を要する児童について、ケース会議8回、連携会議6回、拡大会議3回、教育支援委員会8回、特Coによる保護者面談9回、41名の校内支援体制を考えた。	A	・特別支援学級の参観時に、昨年より落ち着いた授業態度が感じられた。何か対策されたことの効果が表れているのだろうと感じた。 ・全部の先生がチームとなり連携して対応していることは、早期の対応につながり有効な対策となったと思う。	生活指導部
	●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「健康に良い食事をしていく」児童生徒85%以上	・全クラスでスポーツチャレンジに取り組み運動やスポーツの楽しさを味わう機会を増やす。 ・全クラスにボール等の遊び道具を配布し、定期的に点検をすることで、運動に親しめる環境を整える。 ・給食指導や、食育に関する授業の中で、食事は大切であるという意識を高める。	A	・スポーツチャレンジや運動教室等、授業以外で運動する機会を提供し、「進んで運動し、運動を楽しむことができたか。」という項目で児童の86%から肯定的な回答を得ることができた。 ・給食ができるまでの動画や毎日の配膳資料の工夫をし、「健康に食事は大切である」と回答した児童96%の結果を得ることができた。	A	・運動習慣や食習慣は生活の基本である。長期的に学校で取り組んでいることを評価したい。第2回学校評議員会の際、給食を試食したが、最高に美味しく、栄養面のバランスもとれており良かった。これからも継続してほしいと感じている。	保健安全部
	○性教育を中心とした、ジェンダー教育への意識の向上	○「ジェンダー教育に対する意識が高まった。」と感じる職員80%以上	・「性に関する指導計画」を基に、発達段階に応じた性に関する授業を2本以上行う。	A	・ジェンダー教育に対する意識が高まったと肯定的に回答した職員が92%であり、全てのクラスが性やジェンダーに関する内容を2本以上取り扱ったことができた。職員研修や教材の提案をする等して、更に職員の意識が高まるようにしていきたい。	A	・公民館でも人権教育を行うが、指導力不足を痛感している。 ・ジェンダー教育は、教材も少なく難しいが今後もしっかり取り組んでほしい。	保健安全部
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ○職員のやりがいが高まる業務改善案の策定と共通理解・共通実践	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○「働きがいを感じる」について肯定的な回答をした職員80%以上	・繁忙期等を鑑み、日々の目標施設時間を設定し、時間を意識した働き方を行う。 ・会議の精選と資料のデジタル化等の業務効率化、業務削減を図り、業務改善を推進する。 ・運営委員会、専門部会等で改善案を検討し、チーム意識を向上する。 ・職員会議、連絡会等で共通理解をし、共通実践を行う。	B A	・全職員の時間外勤務の月平均が33.1時間となり、40時間を下まわった。 ・退勤時刻を意識した働き方も定着してきており、「日々の目標退勤時刻を意識し、時間外勤務の削減に努めることができた」と回答した職員が88%と、多くの職員が成果を実感できていた。一方12%の職員が未だ課題があると、個々の業務改善の取組は継続が重要である。 ・7月、9月の運営委員会で、時間外勤務状況について検討を重ねた他、夏季休業中には、業務改善に向けた話し合いの場をもち、若手職員の意見を積極的に取り上げるなどして、職場の同僚性の向上に繋げた。 ・「働きがいを感じるための取り組みを進めることができた」と、肯定的に回答した職員が96%であった。	B A	・休日の学校教育施設を眺めると、教職員のものと思われる車両が多く駐車されている。統計上には表れない時間が労働に追われているのではないかと思う。特に保護者対応が、業務負担の一番の原因であると耳にしている。 ・教職員のなり手不足が社会問題化している。現職の先生方が100%「働きがい」を感じられるように、問題解決がなされることを願っている。
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
◎児童の自己有用感の向上	○児童が、本校の一員として目標をもち、その実現に向けて、意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「学校・学級の一員として役に立っている」として肯定的な回答をした児童80%以上	・各活動の目標の共通理解とその支援 ・各種体験活動における活動の見通しと学びの振り返り(児童一人一人の役割と承認) ・職員による「きりり発見活動」	A	「学校・学級の一員として役に立っている」として肯定的な回答をした児童90%以上となった。他学年や他学級と触れ合う機会が増えて、自分たちの活動にアイディアを取り入れ積極的に活動することに繋がっている。さらに、友達との頑張りが挑戦を温かく認める雰囲気も育ったことでこの結果につながったと考える。	A	・「きりり発見活動」など、子どもの成長と自己肯定感を促すための活動が続けられていて、積極的な子どもが多いと感じている。上級生が下級生をいたわる行動も多く見かける。	特別活動部
	○学習規律の定着	○「学びの約束かすが」の実践	○「学びの約束かすが」を守って、学習の準備や学習をすることができる」と回答する児童90%以上	・全校と職員での共通理解を図り、児童の振り返りを定期的に行うだけでなく、職員間でも定期的な振り返りの機会を設け、意識を継続させる。	A	「学びの約束かすが」を守って、学習の準備や学習をすることができる」と肯定的な回答をした児童は94%であり、数値目標を上回ることができた。また、職員の結果では肯定的な回答が96%であり、9月の結果と比べると全体の数値としては下がったが、肯定的な回答の内訳を見ると、「大体できている」から「毎時間できている」に変わった割合が増えていた。児童の回答結果と合わせると、指導や取り組みの成果が表れているといえる。	A	・昨年に引き続き高評価がなされていて定着感が見られる。意識しないでも当たり前に行えるまで「もう少し」というところまで来ていると思う。子どもたちと全教職員の努力に拍手を贈りたい。

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会や4部長会の機能を活かし部会運営を定着させたことで、学校の課題や達成目標を常に職員と共有化させながら、全体で目標達成の取組に繋げることができ、今年度の成果となった。次年度も、4部長会や専門部会、運営委員会を核に、全職員のベクトルを合わせPDCAサイクルを意識した学校運営に全職員で取り組んでいきたい。 ・「学校・学級の一員として役に立っている」と回答した児童が、今年度は90%以上となり、昨年度よりさらに数値を増加させ目標を達成することができた。居心地のよい学級風土づくりを全校体制で推進した他、「きりり発見活動」などの特色ある取組により、個々の児童の向上心や児童自身が自らのよさに気づくことにつながったと考える。今後も「温もり」をキーワードに、他者への思いやりや自己有用感を育む教育を充実させていきたい。 ・保護者や地域の方との連携を重視した学校運営により、各アンケート等でも多くの保護者から感謝や激励の言葉、並びに高い評価をいただいた。次年度も、改善に向けた意見等については真摯に受け止め共に改善策を検討しながら、地域に開かれたよりよい運営に努めたい。
----------------	--